Tsuyama College		Year	2017	Course Title	応用物理Ⅱ
Course Information					
Course Code	0066	Course Category	Specialized / Elective		
Class Format	Lecture	Credits	School Credit: 2		
Department	Department of Mechanical Engineering	Student Grade	4th		
Term	Year-round	Classes per Week	2		
Textbook and/or Teaching Materials	教科書：前期 柴田他「初歩から学ぶ基礎物理学 力学Ⅱ」（大日本図書） 後期 応用物理研究室著「応用物理実験書」				
Instructor	SASAI Yuji				
Course Objectives					
<p>学習目的：物理学は自然科学の中で最も基礎的な学問の一つであり、様々な工学技術の分野に物理学の成果や手法が応用されている。本科目では、剛体の運動について学習し、その計算方法を習得する。また、実験を安全に正しく行うことを目的とする。</p> <p>到達目標： 1. 典型的な剛体の運動系について微分方程式を使って表現でき、また解析できる。 2. 測定機器などの取り扱いを理解し、安全に実験を行うことができる。測定値を正しく計算し、定められた形式で実験報告書を作成できる。 ※分野横断能力については該当しない。</p>					
Rubric					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	基礎的な到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安	
評価項目1	二体系と質点系について、授業で取り扱うほとんどの問題の解答を作成できる。	二体系と質点系について、授業で取り扱う基礎的な複合問題の解答を作成できる。	二体系と質点系について、授業で取り扱う基礎項目の問題の解答を作成できる。	二体系と質点系について、授業で取り扱う基礎項目の問題の解答を作成できない。	
評価項目2	剛体の力学について、授業で取り扱うほとんどの問題の解答を作成できる。	剛体の力学について、授業で取り扱う基礎的な複合問題の解答を作成できる。	剛体の力学について、授業で取り扱う基礎項目の問題の解答を作成できる。	剛体の力学について、授業で取り扱う基礎項目の問題の解答を作成できない。	
評価項目3	測定器を正しく取り扱い、安全に精度良く工夫しながら実験を行うことができる。	測定器を正しく取り扱い、安全に精度良く実験を行うことができる。	測定器を正しく取り扱い、安全に実験を行うことができる。	真摯に実験に取り組むことができない。	
評価項目4	測定値を正しく計算し、定められた形式で実験報告書をまとめ、物理的な考察が十分できる。	測定値を正しく計算し、定められた形式で実験報告書をまとめ、物理的な考察が十分できる。	測定値を正しく計算し、定められた形式で実験報告書をまとめることができる。	測定値を正しく計算できない。実験報告書をまとめられない。	
Assigned Department Objectives					
Teaching Method					
Outline	<p>一般・専門の別：専門・自然科学系共通・基礎 必修・履修・履修選択・選択の別：履修選択 基礎となる学問分野：数物系科学／物理／物理一般</p> <p>学科学習目標との関連：本科目は機械工学科学習目標「(1) 数学、物理を中心とした自然科学系の科目に関する知識を修得し、機械工学に関する基礎知識として応用する能力を身につける。」に相当する科目である。</p> <p>技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(A) 技術に関する基礎知識の深化、A-1：工学に関する基礎知識として、自然科学目の幅広い分野の知識を修得し、説明できること」であるが、付随的には「A-3」にも関与する。</p> <p>授業の概要：前期では講義を行い、応用物理Ⅰでは取り扱わなかった力学の部分に焦点を当てる。後期では実験を行い、今までに履修してきた物理の理解を深める。</p>				
Style	<p>授業の方法：前期は講義であり、板書を中心に授業を進めるが、理解を深めるためにできるだけ学生に質問をする。後期は実験であり、目的・理論・使用器具を事前レポートとして書いておき予習した上で実験を遂行していく。</p> <p>成績評価方法： 前期：2回の定期試験で70%、演習・小テスト・レポートで30%とする。試験は教科書・ノートの持込を許可しない。なお、定期試験が60点未満の学生に対して再試験を行い、60点を上限とする得点を定期試験の点数と差し替える。 後期：実験報告書、事前レポートの作成などの実験への取組により評価する。実験レポートに問題がない場合を85点程度とし、内容と提出状況により減点する。もちろん、優秀な実験レポートに対しては加点もある。 最終的な評価は(前期の点数+後期の点数)÷2とする。</p>				
Notice	<p>履修上の注意：前期は講義で、後期は実験である。前期と後期それぞれで合格点となるよう不断の努力をすること。</p> <p>履修のアドバイス：3年生までに履修した物理や数学を折に触れて復習しておくこと。</p> <p>基礎科目：物理Ⅰ(1年)、物理Ⅱ(2)、応用物理Ⅰ(3)、工業力学(3)、3年次までの数学</p> <p>関連科目：数理科学Ⅰ(4年)、応用数学Ⅰ・Ⅱ(4)</p> <p>受講上のアドバイス：本科目は原子力コア人材育成関連科目である。 前期：3年生までの基本的な数学を修得していないと理解することが難しいので、折に触れて復習しておくこと。 後期：目的・理論・使用器具の部分事前レポートとして準備して実験すること。 実験に支障が出るので、遅刻をしないこと。 授業開始25分以内であれば遅刻とし、遅刻3回で1欠課とする。</p>				
Course Plan					
			Theme	Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	前期ガイダンス		
		2nd	2体系の重心	重心の理解	
		3rd	相対運動と換算質量、運動量保存則	相対運動と換算質量、運動量保存則の理解	

2nd Semester	2nd Quarter	4th	衝突, 角運動量	反発係数, 角運動量の理解	
		5th	角運動量保存則	角運動量保存則, 重心の運動に対する相対運動の理解	
		6th	回転運動	回転運動, 偶力の理解	
		7th	演習	演習による理解の深化	
		8th	(前期中間試験)	60点以上のスコア	
		9th	前期中間試験の返却と解説, 質点系の重心	見直し, 質点系の重心の理解	
		10th	剛体の重心, 並進運動に関する運動方程式	剛体の重心, 並進運動に関する運動方程式の理解	
		11th	剛体の運動方程式	質点系の並進運動・回転運動, 剛体の並進運動・回転運動に関する運動方程式の理解	
	12th	剛体のつりあい, 剛体の慣性モーメント1	剛体のつりあい, 剛体の慣性モーメントの理解		
	13th	剛体の慣性モーメント2, 剛体に関する運動方程式の適用例	慣性モーメントの計算, 剛体に関する運動方程式の適用の理解		
	14th	演習	演習による理解の深化		
	15th	(前期末試験)	60点以上のスコア		
	16th	前期末試験の返却と解説	見直し		
	2nd Semester	3rd Quarter	1st	後期ガイダンス	実験の進め方, まとめ方, 注意事項の理解
			2nd	ずれ弾性率 (以下の実験順は班により異なる)	実験実施
			3rd	2球の衝突もしくは月ロケット	実験実施
4th			音の振動数	実験実施	
5th			光の速度	実験実施	
6th			回折格子	実験実施	
7th			波動もしくは電場と電位	実験実施	
8th			(後期中間試験期間) レポート受付	未提出分のレポート提出	
4th Quarter		9th	プランク定数	実験実施	
		10th	再実験	未実施実験の実施	
		11th	プランク・ヘルツの実験	実験実施	
		12th	放射線計測	実験実施	
		13th	γ 線逆二乗テスト	実験実施	
		14th	霧箱実験	実験実施	
		15th	(後期末試験期間) レポート受付	未提出分のレポート提出	
		16th	再実験	未実施実験の実施	

Evaluation Method and Weight (%)

	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	Total
Subtotal	35	0	0	0	65	100
基礎的能力	20	0	0	0	35	55
専門的能力	15	0	0	0	30	45
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0